

2023ふるさと座談会「かずミーティング」(結果)

- 日時: 令和5年9月16日土曜日 午前9時から10時まで
- 会場: 沼南近隣センター2階学習室
- 参加者は別紙(添付省略)のとおり29名
- 議事内容



1. 開会のあいさつ【永塚市民生活部長】

本日の座談会への市民の皆さまのご参加に感謝申し上げます。

本会は今年度市長発案にて実施され、本日で9地区目を数えました。直接、地域の方からお話を聴く機会は、市職員にとっても学びの多い場と感じ、今後の政策実施の参考にさせていただきます。

2. 本日のスケジュール等事前説明【猪野統括リーダー】

本日の日程は会場投影スライド《巻末画像参照》のとおりで、10時までを予定。実施結果(概要)は後日市のホームページに掲載させていただく。座談会の最後に集合写真を撮影する予定なので、支障のない方は撮影にご協力願います。

本日は、最近市で実施した取り組みから抜粋してご案内《添付資料「市ではこんなことも行っています」》しており、本会に際し参考としていただきたい。

市長到着まで、吉田市民活動支援課長(市の歴史、考古学の話)、村田市民協働支援員(藤ヶ谷地域サロンづくり時代の思い出)から一言が寄せられた。

その後市長ご到着・入場。

3. 風早北部地域での活動等概要説明【真間風早北部ふる協広報部副部長】

当地域の歴史や特徴、地域活動内容につき前半で案内、後半は当地域の課題として、①域内に総合病院がないことで災害時のトリアージ対応が困難となっていること、②大きな商業施設の負の影響として犯罪発生が最悪の状況で推移中であること、③高齢者層と若い世代の格差が域内各地区にて顕著となっている(市中心部への交通問題を含む)こと、④沼南近隣センター老朽化、各種レクリエーション施設の廃止など市民の社会活動に大きく影響していること、につき重点的に解説した。《スライド資料は16日中に当会ホームページにて掲載済み》

4. 上記「3.」を受けての市長ご発言【太田柏市長】

生まれ育った沼南地域には愛着を感じている。皆さんの活動からは自治の精神を感じており、また市に先んじて公式LINEアカウントの開設には感心した。その他、女性防

災サークル活動など、様々な活動を展開されていることがよく分かった。開店当初からアリオ柏周辺の渋滞や犯罪発生が増加は承知している。犯罪発生レベル（５）は、その指標自体に若干問題があると認識し、今年度からレベル表示を取り止めている。

総合病院がこの地域に無いことは、私も問題意識をもっており、コロナ禍で３年ほど検討が滞っていたが、医師会（現市医師会会長は災害対応のご見識が高い方）等関係者との協議を行っており、具体的内容をお話できる段階ではないが、災害医療施設の設置の件はしっかりと考えていきたい。

沼南近隣センター老朽化については、認識しているが、今日改めて皆さんからの生の声を聞いて、施設をどうすべきかをさらに検討して参りたい。その中で、市が今後直面する大きな課題につき申しあげる。それは人口の減少である。市試算では２０３５年に市の人口がピークを迎え、その５年前の２０３０年には生産年齢人口が減少していくと想定。すなわち税収減となる一方、一層の高齢化で社会保障費負担がさらに増加する。そうした環境下で施設建物の老朽をどうするかは、単純に建物の新設（立て直し）が難しいことに直結する。来年は市政７０周年を迎えるが、今後３０～５０年先を観ての施策を市民の皆さんと議論して参りたいと思っている。

交通手段の問題は、今の若い方々が決して自家用車に頼ることなく、公共交通を利用する方向に進んでいる中、例えば、（東武野田線/UPL）高柳駅東口は駅前にも拘らずバスの進入が出来ない道幅であり、こうした部分の改善が先ずは必要と思っている。

5. 柏市長との懇談～会場参加者からの質問や意見

塚崎区住民：当センター（前身の沼南公民館）は、私ども地元住民が無償で土地を提供して建てられたことで、愛着をもっている。この場所（建物）を大切にしたい。また、この地域からは子どもたちの遊び場がどんどんなくなっていることに不安を抱いている。子どもたちの元気な声が聞こえてくる町が大切である。今後も子どもの遊べる場所の確保をお願いしたい。

手賀の杜自治会住民：市作成の直近の犯罪発生マップ及び「手賀の杜地区の交通の安全と住環境の改善に向けて」と題した資料を会場内に配布し、手賀の杜中央通りの大型車両通行規制の必要性を訴えた。直近での一例として、ゴミ集積場の破損事故に絡んで、対応した警察官が高柳派出所の方であったことを紹介し、当地域内警察施設が有効に機能していない実情を指摘。手賀の杜地区の休閑地を提供することも組織として検討できるので、警察派出所（交番）設置への働きかけを要望した。

手賀の杜自治会住民：手賀の杜中央通りの大型車両通行問題につき、国交省運輸局への申し入れも組織として検討している。先般は大きな事故には至らなかったが、横断歩道付近で子どもが車両と接触する事故が発生。その時の事故処理警察官と、「子どもは大人から言われたことを基本的に守る、対してルールを守らない大人に対応するのが大人の責任」との主旨で会話した。まさに子どもたちが大人に指摘するのは困難、子ども目線で話を聴いて対応するのが大人の責任である。我々住民から警察への取締り強化の要請も行っていくので、行政からの協力もお願いしたい。

→警察派出所設置要望に関して**市長からの発言：**

本件の所管が県（千葉県）となっていることでは、私どもも要望をそちらに申し入れることとなる。現時点で私が把握していることで申しあげると、警察派出所設置の要望については、他の地域からも同様の要請がある一方、警察当局は、派出所の新設についてはほぼ実施されていない実情であることを何卒ご理解いただきたい。ただし、要望は続けていき、地域からの声を上げ続けてほしい。

大津ヶ丘三丁目町会住民：当地域の幹線道路が国道16号線、県道船橋取手線などに限定しており、それ以外は道幅が狭く、歩行者（特に登下校の学童）の交通安全に不安が多い。道路拡張整備を是非計っていただきたい。

手賀の杜自治会住民：当地域では3年ぶりで地域一斉防災訓練がこの秋実施予定で、参加団体は地域内33中22団体（規模は全体の3分の2）である。より多くの団体住民参加が防災訓練を真に有効なものとする条件であると考えれば、現在市が行っている総合防災訓練（今年は9月30日に柏の葉地域を会場に実施予定）は、市内のほんの一部を対象にしたものであり、訓練の実効果が非常に薄いものと危惧する。私どもは、市内一斉（決して同じ日時に実施することにこだわらなくてもよい）訓練を市内の広範囲で少なくとも年1回（理想は秋に1回、春先にもう1回）実施することが必要※であり、これなしに柏市地域防災計画が実際の災害発生時に有効に機能するかの評価は出来ないものと考えている。今後市長の市主催防災訓練のあり方の見直しを期待したい。

※私ども風早北部地域ふるさと協議会は数年前から、市内広範囲での防災訓練の実現を市の防災担当部局に申し入れしておりますが、市側からはこれに対する肯定的、前向きと思われる回答はなく、今年も市内の一部地域での訓練実施になりました。

大井区舟戸町会住民：3点申しあげる。①住民高齢化の中、こうした旧住民と移住された新住民とのコミュニケーション不足が問題となっている。新住民の町会新規加入や役員就任にも支障となっていることを危惧する。市として住民間のコミュニケーション

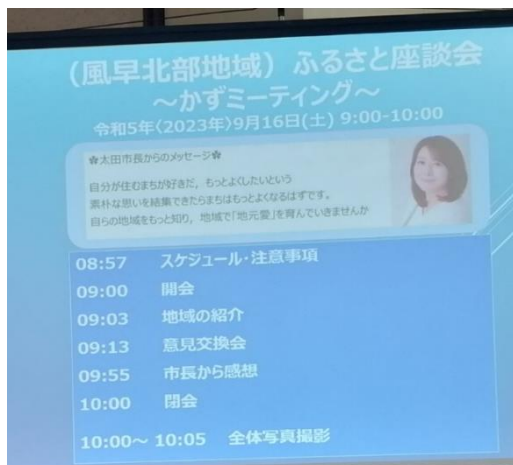
促進啓蒙策を講じてもらえないか。②地域中心部の大島田柏戸交差点周辺の交通安全（風早北部小に登下校する学童を守る対策）が急務である。その補助ボランティア住民不足の解消が喫緊に求められる。③大規模総合病院がないこの地域で、かしわにくるタクシーの使用も域内に限られ、域外病院への移動に困る住民もいる。住民利用可能な交通手段の確保が大きな課題となっている。

大津ヶ丘一丁目町会住民：旧沼南町の柏市合併、沼南公民館の近隣センターへの移行に際し、それまで積極的に行われてきた生涯学習教室（オープンカレッジ、寿大学、女性大学といった名称）の機会が、現状では一切なくなった。移行の前後で実施されていたものが、時の市上層部の意向（と聞きおよび）もあって無くなってしまったことは誠に残念であり、その復活を期待する住民の声もあることを市長にはご理解いただきたい。

風早北部地域ふるさと協議会長：再度申しあげるが、アリオ柏や道の駅しようなん来訪者が地域内の細道をバイパスとして利用することで、大きな事故には幸いに至っていないものの、「ヒヤリハット事故」は決して少なくないと思っている。是非現場を市職員のみで観て、体感され、必要な政策に結び付けて欲しい。

6. 締めくり市長発言

皆さんの生の声を聴いて学ばせていただいた点多かった。すべての要望にお応えできるのは難しく、「出来る・出来ない」の選別は明確にして、今後の市政に取り入れていき



たい。本日の皆さまのご参加に改めて感謝を申し上げます。

以上